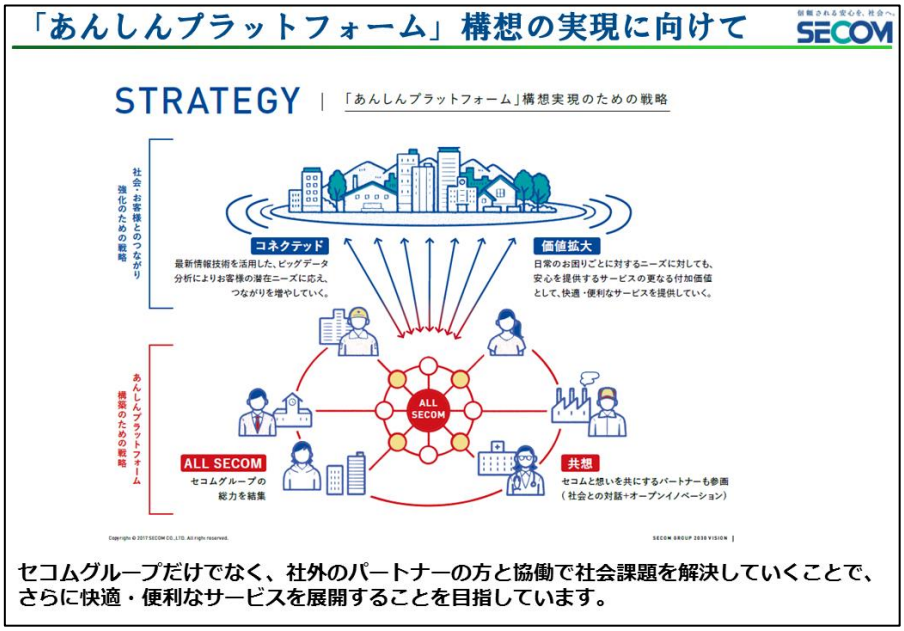
セコムにおける災害への取り組み

セコム株式会社　目﨑祐史氏、小松原康弘氏

目﨑氏は、会社として目指しているのは「安心・安全で快適・便利な社会の実現」とした上で、今年 5 月に「あんしんプラットフォーム」という 2030 年のビジョンを発表したことを報告しました。目﨑氏によれば、「あんしんプラットフォーム」は、セコムと想いを共にするパートナーの方々と一緒にやっていこうということで、「共想」という言葉を使っています。オープンイノベーションをもっと推し進めていこうという考え方をベースに、AI や IoT など、最新の技術を徹底的に取り込んで、安心や安全に貢献する新しい事業を立ち上げたり、今ある仕事の価値を上げていこうとしています。



セコムグループだけでなく、社外のパートナーの方と協働で社会課題を解決していくことで、さらに快適・便利なサービスを展開することを目指しています。

セコムでは、オンラインセキュリティシステム、リアルタイム災害情報サービス・安否確認サービス、災害支援プロジェクトを行っています。目﨑氏に代わり演台に立った小松原氏は「これまで多くの災害の中で、オンラインセキュリティシステムを運用できるように進めてきました。被災状況を迅速に把握できれば、人員を早く最適な場所に配置することができ、復旧対応を早めることができます。こういった対処の部分や問い合わせが集中する管制センターについて、今回のデータ利活用協議会の中で、さらに進化させる取り組みを考えていきたい」と協議会への期待を語りました。今後の方針としては、リアルタイム災害情報サービス・安否確認サービスでは、これまでにない災害情報を提供して顧客の事業継続をさらにサポートしていき、また、災害支援プロジェクトについては、被害の全体像をさらに詳しく把握するために、新たな手段を考えていくことなどを報告しました。